

平成 30 年 10 月 教育委員会会議録 第 11 回

- 1 日 時 平成 30 年 10 月 17 日（水） 10 時 00 分～11 時 40 分
- 2 場 所 教育長室
- 3 出席者 教育長 太田耕樹
委 員 松村英勝・埤本友造・平沖純子・向井智恵
- 4 出席職員 河本教育次長・新谷学校教育課長・福嶋生涯学習課長・藤原主幹
肥田係長（記録者）

開会 太田教育長 開会を宣する。

1. 教育長報告

- (1) 災害に係る復旧・復興状況について
町全体及び学校の状況等について、概要説明。

(埤本委員)

災害による子ども達の精神的な影響は、どうか。

(太田教育長)

スクールカウンセラーと連携して取り組んでいる。ずっと寄り添っていないといけなような子どもはいないが、時々フィードバックして不安定になる場合もあるので、定期的に来てもらいケアをお願いしている。今後も、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを活用しながら、見守っていききたい。

(藤原主幹)

9 月は、小屋浦小学校へほぼ毎日、坂小学校、坂中学校へも複数日、スクールカウンセラーを配置していた。県内だけではカウンセラーの人数が不足しているので、他県からも応援いただいた。10 月からは、今年度、坂中に配置されているスクールカウンセラーを、月に 1 日ずつ、坂小学校と小屋浦小学校に配置し、継続的にケアを行う。また、現状等のアンケート実施を予定している 12 月には三者懇談の日程等に合わせて複数日配置できるよう県教委と連携しているところである。このような取組は今年度末まで継続していきたいと考えている。

(太田教育長)

スクールカウンセラーだけが心の専門家ではないので、養護教諭を中心に教

職員が見取ることができるカウンセリングがある訳だから、そちらがメインとなるよう移行していく事が必要である。しかし、今はまだ、保護者へのカウンセリングが要する時期でもあるので、引続きスクールカウンセラーの力を借りながら取り組んでいきたい。

(藤原主幹)

スクールカウンセラーを小学校へ配置した時は、児童が相談に来るのを相談室で待つだけでなく、クラスを巡回し、全児童の様子を見ていただいている。相談したい児童がいれば、相談室にてカウンセリングを行っている。また、希望があれば、坂中学校への配置日にも相談できるようにしている。

(松村委員)

9月当初に、小屋浦小学校に1週間くらい配置されていたが、何か効果はあったか。

(藤原主幹)

8月末の学校再開日の前日から約1ヵ月配置した。不安を抱える子どもたちだけでなく、どのように接すれば良いか迷いのあった教職員もいたので、学校からは「良かった」という声を聞いている。

(松村委員)

小屋浦みみょう保育園の再開について、何か聞いているか。民間だから町が直接関係していないかもしれないが、住民から「元の場所での再開は不安である」という声も聞いている。

(河本教育次長)

はっきり決まっていないようだが、元の場所に何か対策をした上で再開すると聞いている。

2. 議題

(1) 報告・協議1：平成30年度坂町教育委員会経営計画の中間報告について

河本教育次長から共通部分を、新谷学校教育課長から学校教育課部分を、福岡生涯学習課長から生涯学習部分を、概要説明。

(平沖委員)

不登校の定義は何か。

(藤原主幹)

欠席日数30日以上である。その他、詳細の定義があるので資料を提供する。

(埜本委員)

生涯学習課の目標値について、災害前の数値のままで行くのか。修正するにしても難しいとは思う。

(河本教育次長)

図書冊数では、図書館利用ができなかった期間分を差し引いた数値に検討する必要があるし、ウォーキング大会についてもコース変更等を考慮した中で検討する必要があると思う。

(福島生涯学習課長)

2 km コースは大丈夫だが、5 km と 10 km コースは従来どおりでは不可能なので、他のコース設定を検討し、実行委員会で諮る必要がある。

(松村委員)

実行委員会はいつ頃から。

(福島生涯学習課長)

11 月初旬に予定している。

(河本教育次長)

例年どおりなら、10 月には各印刷物を作成し、発送や広報・掲示等により周知し、12 月から募集を行っていた。コースも含め、例年どおりでは進めていけない。

(太田教育長)

何事においても現状に沿って、できる範囲でしか実施できない。目標値を変更する事の方が難しいように思う。今年度ベースでの目標値に対して、災害の影響部分を考慮した総括となるのではないかと思う。ただ、これは教育委員会だけの問題ではなく、他の部署も目標設定して動いているので、坂町全体で考えなければならないと思う。

(2) 報告・協議 2：議会全員協議会（10 月 5 日）について

河本教育次長から、質疑応答等について、概要説明。

3. その他

(1) 学校へ行こう週間について

藤原主幹から、日程等の概要説明。

(2) その他関係する行事について

新谷学校教育課長から、小学校学習発表会及び坂中文化祭、その他の行事等について、概要説明。

(3) 公立小中学校職員定数等活用状況調査について

新谷学校教育課長から、広島県教育委員会の学校訪問調査中に受けた指導及び講評内容等について、概要説明。

(4) 第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会について

新谷学校教育課長から、大会及び参加選手の情報等について、概要説明。

(松村委員)

以上で、本日の議題等は終了だが、他に何かあるか。

(福島生涯学習課長)

明日、10月18日(木)に、日本財団HEROs ACTIONが西日本豪雨災害支援活動として、坂中学校等を訪問するので、お知らせする。

(松村委員)

その他にあるか。

(松村委員)

無いようなら、私から報告する。先日、小屋浦小学校の教諭と話したことが、小学校の理科の授業で「大地の作り」「流れる水の働き」という内容があり、私自身いくつかの教材を持っており、授業を行ったこともある。この内容は、通常2学期に行うのだが、災害直後でもあるため、どのように授業展開すれば良いか悩んでいる様子で、私に力を貸してほしいと頼んできた。災害を配慮して実施しないという訳にはいかない。どのような形で実施するのが良いか、またどの時期にするのか等を小屋浦小学校と連携しながら行っても良いか。

(太田教育長)

お願いしたい。子ども達に配慮する事も必要だが、過敏に心配しすぎる事も良くないと思うので、教材としてやっていただきたい。また、学校がスクールカウンセラーと連携する事も必要だと思う。

(藤原主幹)

各学校に対し、学校再開に向け、指導計画や教科書の内容等を確認し、適した時期・内容を検討し、実施時期が前後しても構わないが、必ず年度内にやり切る事を指導した。

(松村委員)

次回の教育委員会会議の日程を確認する。

11月20日(火) 10:00～ 教育長室

閉会 太田教育長 閉会を宣する。